

テーマ：

神の法

ザコン ボージイ
Закон Божий

《 人間の本分 》

前回、私たちは「神の法」という概念があることについて話を聞きました。

今回は、その内容に入っていきます。 「神の法」の本を開けると、最初にあるテーマは、

「世界について」というテーマです。 この場合の「世界(мир)」とは、主・神が創造された身ゆると見えざる万物の総体を言います。

この「世界」が、主・神の受造物であるということを確信することが、正教の信仰の最初の土台となります。 言い換えれば、もしこの「世界」が、主・神が造られたのではなく、他の原因によって造成されたものだという考えがあるとすると、その考えの上に正教の信仰は成り立たないということです。

最初の人間アダムは、このことを知っていましたし、その摂理も理解していましたから、神さまに言われて、全ての受造物に名前を付けることができたのです(創世記より)。 その後、人間はこの天地創造のプロセスや主・神の慮りから遠く離れてしまいましたが、霊のどこかでそれを常に感ずるチャンネルを失ってはいません。 夜の星空を見たとき、美しい花を見たとき、広い海を見たとき、私たちが自然と「神さまは何と偉大な世界を造られたのだろう」と感ずるのは、このチャンネルに拠るものです。

さらに「神の法」は、この世界が人間のために造られたものであるということを私たちに教えています。 人間は、創世記に拠ると、万物の創造の一番最後に造られました。 それゆえ、正教会では人間のことを「創造の冠(仕上げ)」と言います。 この人間には、神さまから「本分」が与えられました。

それは、「神を認識し、神に倣い、神の如くなること」です。

この本文をまっとうするために人間に与えられた環境、それが「世界」であります。 現代に生きる多くの人々が、既にアダムの時代から遠く離れて、この「人間の本分」をすっかり忘れてしまっているのは、残念なことです。 自分の「本分」を知らずに、この世を渡っていくのは、大変なことです。 それが原因で、人間の悩み・苦しみは増え、犯罪や自殺などあってはならない多くの罪がこの世に現れました。

「人間の本分」を自分の子供に教えることは、正教信仰の継承の第一歩です。

自分を造られた神(「天にいます我等の父」)を愛し、神の教えと戒めを護ることができる人は、「永遠の生命を嗣ぐ」ことができます。